

2022年度活動報告

1. 現在の認識

・現代技術は高度に専門化し、専門の技術者以外には容易に判断することが出来なくなっている。ところが、専門の技術者によるデータ改ざんや捏造、隠蔽など、技術者の倫理と責任を問われる不祥事が多発し、また、大手企業による組織ぐるみの不正事件が起こり、公衆の安全や健康・福利が脅かされ、技術者に対する信頼が薄らいでいる。

2. 工学倫理教育(技術者倫理教育、Engineering Ethics)

1) 講義

- ・2001年に日本の大学に工学倫理教育が導入された。欧米に10年遅れる。
- ・内容は、技術者が直面する倫理的な問題に対して、どのように考え、どう判断して、どのように行動するかを考える。技術者が実際に直面する倫理的な問題とは、特に、安全、リスク管理、環境・資源、コンプライアンス、知的財産権に関係することが多い。
- ・講義は、毎回具体的な事故事件を取り上げ、学生同士のグループ討議によって、技術者のあるべき姿を探る。
- ・事例としては、チャレンジャー号事故、自動車メーカー欠陥隠し事件、耐震偽装事件、発明対価訴訟、福島原発事故、ジェネリック不正事件、サイバー攻撃、ワクチン偽装事件等

2) 受講前の感想(履修時)

- ・倫理て何？なんの講義かよくわからない。寝る時間にちょうどいい。
- ・実験などでやってはいけないという小言を言われるかと思うとうんざりだ。
- ・理系なのに文系の授業を何故受けるかのわからない。正直受けたくない。

3) 実施

- ・2単位、半期15回講義、毎回レポート、4から5回のグループ討議と発表の繰り返し

4) 受講後の感想(全講義終了後)

- ・世の中のすべての技術が、技術者の苦渋の努力で成り立っている事を感じました。
- ・ニュースなどで技術者が絡む事故事件を見て、自分のこととして考えるようになった。
- ・今年4月から就職するので、その前にりっぱな技術者として働く心構えができました。
- ・4年間で最も身近で自分のことを顧みることができる身についた授業だった。

願いは、若い人たちが、専門的な知識と高度な倫理観を持った技術者に成長して欲しい。